

世界唯一の国際大会【第2回 世界イグルー選手権大会】が大成功を収めました。

世界中のどこにもない大胆な発想で始めた「世界イグルー選手権大会」でしたが、町内外の志ある方々のご協力を頂き、昨年以上に盛況のうちに終了しました。(参加国 昨年7か国、本年20か国)

国内外から大変「ユニーク」だと評された本イベントを実施する理由は「イベント」を実施し、集客、当町をPRすること以上に今後の当町の「観光やイベント」の有り方に関するさまざまな検証を兼ねることでした。本号では当大会を通じて得たさまざまな「検証結果=成果」を皆さんに紹介します。

①県内トップの人口減少、高齢化が進捗している「過疎地」でのイベントの有り方を検証できたこと

今回は安田女子大学と当会が協定を結んでいる「安芸太田町困りごと解決プロジェクト」の一環として13人の学生とIターンの若手人材やUターンの方々そして当会職員6名にて運営し、町内の中学生から企業関係者まで「参加者」としてイグルー作りを楽しんでいただきました。

特に運営に携わった安田女子大生たちの華やかな声が聞こえるイベントは非常に活気がありました。

このことから「イベント準備運営を最少限の負担に留め、外部の協力をいただける仕組みを作る」そして「町民の方々には運営側よりも一緒にイベントに参加して都市部住民と交流を図っていただく」ことによって、よりイベント効果が高まり、参加者も満足してくださることが実証できました。

まさにいま、県内トップの人口減少と高齢化が著しい当町にあって、私たちは県内に先駆けて「イベントに対する考え方や実施の仕方」を大胆に変えねばならない時期に差し掛かっております。

これらの結果を総括した場合、町外からの協力を多く取り込みつつ、最少限の労力で素晴らしい成果をあげている「あきおた国際音楽祭」については、当町の新たなイベント運営像を示していると考えています。

②これまで町内で主流であった「来訪者のステージ観覧型」イベントでは無く、町外来訪者参加型のイベントが、今後当町のイベント運営に最も大切な「要素」であることを検証できたこと。

市場調査を何度も重ねた結果、来町者が「当町のイベント」に求める要素は「参加型」かつ「交流型」であり、それを実証すべく本イベントを開催した結果、国内外の参加者から高い評価をいただきました。

特に海外のお客様からの評価が高く、岩国基地放送局から全世界へ大会の様子が配信され、今夏にはテレビでも放送されます。

これらの結果を総括した場合、「しわいマラソン」の大きな特徴は参加型かつ田舎の方々との交流型であるため、当町の今後のイベント運営像を示している素晴らしい例だと考えています。

③SNSの活用だけで十分に「人」は集められることを検証できたこと。

今回は第1回大会以上にフェイスブックのみでの情報発信、集客告知活動を意識的に行った結果、「無料」で世界各国、日本全国約98万人(69か国、152都市)の人々に当町の情報をお届けできました。

このことは光ケーブルが敷設され、いよいよ高度情報化社会が訪れ、大容量データを瞬時に送信処理できる「過疎地」安芸太田町にとっては大きな「武器」になることを証明できました。

④当町冬季の基幹産業であるスキー場の10年先の戦略として、「スキー・スノーボード」以外でも集客できる「スキー場からスノーリゾート(雪国遊園地)」の展開が可能であることを検証できたこと。

21世紀後半に向けて人口減少に伴う「スキー・スノーボード市場縮小」が避けられない状況において当町冬季の基幹産業であるスキー産業を今後も発展させるために、スキー・スノーボード愛好者以外の方々を取り込み、ビジネスとして確立させることを他のスキー場に先駆けて実証することができました。

これは民泊による雪国体験や森林セラピー冬季プログラム、戸河内IC～町内スキー場への無料シャトルバス運行などとセットで複合的に展開することが、基幹産業をささえる大きな手段となることを証明できました。

※上記①～④を踏まえ、「過疎地」の先頭を行く当町に相応しい、観光振興の手段を活用し、展開して参ります。